

國學院大學学術情報リポジトリ

「っぽい」について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-02-26 キーワード (Ja): 「っぽい」, 「っぽい」の新旧用法, マイナス評価, モダリティ, 日本語教育における「っぽい」 キーワード (En): 作成者: 山本, 楓 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000101

「っぼい」について

山本 楓

【キーワード】 「っぼい」 「っぼい」の新旧用法 マイナス評価 モダリティ
日本語教育における「っぼい」

1. はじめに

接尾辞「っぼい」は、以前は「水っぼい」「怒りっぼい」など、限られた前接語にしか結びつかないことばだったが、近年、用法の広がりとともに「この先、海っぼいね」「明日は雨が降るっぼい」など、結びつく前接語も増えてきた。本稿では、これらの限られた前接語に結びつく旧用法と、広がりつつある新用法について観察・分析するとともに、「っぼい」を日本語教育の現場でどう取り扱うべきかの提案を行いたい。

以下、第2節で「っぼい」の新旧用法について簡単に見たあと、第3節では、旧用法の主な先行研究について、第4節では旧用法の用例の観察及び分類、第5節ではマイナスの意味を付与するかについて、第6節では新用法について、考察する。第7節では日本語教育での「っぼい」の扱いについて本稿の提案を述べる。

2. 新用法と旧用法

先行諸研究のうち、小出（2005）は、「っぼい」には旧用法と新用法があるとし、両者の主な違いについて以下のように捉える。まず、旧用法とは、以下のようなものである。

- (1) 彼は相当忘れっぼい。(小出 (1)a)
- (2) この酒は水っぼい。(小出 (1)b)
- (3) 嫌味っぼい性格。(小出 (1)c)

前接語は基本的に名詞としての性質を備えているものに限られる（「忘れっぼい」のような場合は、動詞の連用形だが名詞相当と見ることができる）と、小出は見る（p. 1）。

一方、新用法は以下のようなものである。

- (4) どーも明日は雪が降るっぼい。(小出 (2)a,
<https://www.biwa.ne.jp/~okada/2001.html>)
- (5) 今日も自作PCのファンまわりをいじって静音化。8cm角なら1500回転以下くらいのファンが静かでいい感じだけど、同じ回転数でも薄型より厚型（というか、普通の厚みのやつ）の方が静かでいいっぼい。(小出 (2)b,
<http://www.alpha-net.ne.jp/users/sorano/essay/s200305.html>)
- (6) （1行だけの書き込み）やすこちゃむと静夜さんに会ってみたいっぼい～（小出 (38), <https://www.tiara.c/~lxxa/bbs/10.html>)

新用法は、名詞以外を前接語とし、「っぼい」はモダリティにかかわるものであると、小出は捉えている（p. 8）。小出（2005）は、新旧両用法の存在を述べ、「旧用法」「新用法」

と名づけを行い、「新用法」はモダリティの表現だと指摘した、このすべてを行った最初の論文なので、本稿でも、小出によって紹介した（以後も小出に基づいて論じていく面が多い）が、小出（2005）の新用法にあたるものの存在については、小出よりも早く、あるいは同時期に、小松・木村（1997）、庵ほか（2000）、ケキゼ（2003）、小島（2003）、尾谷（2005）にも指摘があり、その後も、久保（2008）、岩崎（2009、2011）、梅津（2009）、小原（2010）、佐藤（2015）、中村（2019）の各研究でも言及されている。

一方、「っぽい」のうち、小出のいう旧用法にあたるものについては、上記の諸研究の他、国松（1970）、中島（1983）、森田（1989）、飛田・浅田（1991）、石島（1994）、野村（1994）、山下（1995）、門倉（1996）、頼（1999）、田村（2004）、竹島（2010）、濱田（2010）がとりあげている。

3. 旧用法について ― その主な先行研究 ―

まずは、旧用法について見る。旧用法について関心を惹かれるのは、一つには、前接語が増えていることである（新用法ではなく、旧用法の範囲で）。もう一つは、旧用法の「一っぽい」には、意味的にマイナスの印象を付与する機能があるという指摘があることである。前者については、前接語の増加・拡張について、すでに十分な指摘がある¹ので、本稿では、後者が ― 「一っぽい」にマイナスの響きがあるという見方が ― どのぐらい適切なのかということの一つの問いとして、旧用法の「一っぽい」を見ていく。本節では、旧用法についての主な先行研究として、小出（2005）、小島（2003）、国松（1970）をとりあげて概観し、次節では、いくつかの「一っぽい」という語の使われ方を具体的に観察する。

3.1. 小出（2005）

小出（2005）は、名詞プラス「っぽい」の用法を、次の①－③の大きく3つに区分している（pp. 3-6、下表は本稿による要約）。以下の表の「X」、「Y」は「XっぽいY」の「X」と「Y」である。

表 1

		【名詞の特徴】及び意味	例
①	XというものをYが含む。（Yに含まれるXの量の多さ。）	①-1 【触覚・味覚でとらえられるもの】非本来的な属性が感じられる状態を表現。	水っぽい酒、埃っぽい空気
		①-2 【視覚でとらえられるもの】含有が通常値より多いこと。	黒っぽい服の色
		①-3 【嗅覚、聴覚でとらえられるもの】Xが具体性を失うと、「Yに含まれる属性が、ほかの物	薬品っぽい匂い、薬品っぽい水

¹ 石島（1994）、野村（1994）、山下（1995）、門倉（1996）、小松・木村（1997）、頼（1999）、小島（2003）、ケキゼ（2003）、田村（2004）、小出（2005）、久保（2008）、梅津（2009）、岩崎（2009）、竹島（2010）、濱田（2010）、小原（2010）、岩崎（2011）、佐藤（2015）、中村（2019）

		Xに含まれる属性と類似しており、かつ、Yが通常持っている属性Xの割合より多いと感じられること（類似）。	
②	Xのプロトタイプの持つ属性をYが含む。（X性という属性の含有。）	Yの属性の中に、Xが一般に持つとされる属性を通常より多く持つと感じられること。	×犬っぽい猫 ○夏っぽい服
③	Xという属性をYが含む。	XがYの含む属性を直接的に表現	忘れっぽい人

3.2. 小島（2003）

小島（2003）は「っぽい」の用法を a, b, c1, c2 の4つに区別しているが（pp. 32-34）、このうち c1, c2 が名詞に付く用法であり、ここでは、その「c1」「c2」を「1」「2」として引く（pp. 32-34、下表は本稿による要約）。

表 2

c	例	意味
1	つやっぽい、骨っぽい、水っぽい、理屈っぽい	それが多い、またはそれが目立つ様子。
2	大人っぽい、こどもっぽい、男っぽい、女っぽい、嘘っぽい、不平っぽい	いかにもそういう印象を与える様子であること、またはそのものの性質の特徴的な一端を持ち合わせている様子、それに通じる要素が感じられる様子。

小島（2003）は、1は、「それが多い、それが目立つ様子」。2は「いかにもそういう印象を与える様子であること、またはそのものの性質の特徴的な一端を持ち合わせている様子、それに通じる要素が感じられる様子」と分析したうえで、実例を用いた意味の解釈としては「どこか～のように感じられる」「なんとなく～だと感じる」とした。

この分類について、小島は、「理屈っぽい」及び、「嘘っぽい」「不平っぽい」を例に、次のように説明している。

「理屈っぽい」は「何にでも理屈をつける」様子を表す1で、「どこか理屈のように感じられる」2の意味ではない。「嘘っぽい」は「すぐに嘘をつく」様子を表す1ではなく、「なんとなく嘘だと感じられる」ことを表す2の意味である。また、「不平っぽい」は、「愚痴っぽい」のような「不平が多い」という1の意味ではなく、「不平のような類のこと」という2の意味で用いられる。

このように小島（2003）は名詞に接続する「っぽい」を2つのタイプに分けている。

3.3. 国松（1970）など

国松（1970）は、名詞プラス「っぽい」の用法を、次の a－c の 3 つに区分している（pp. 202－205、下表は本稿による要約）。

表 3

	前接語	例	意味
a	<u>自然物及び自然現象</u> 油・粉・ほこり・水・すじ・ （骨・熱）	水っぽい（水分がたくさん含まれている。塩気が少なくて味が薄い。）	本来それを必要としないものにそれらがマイナスの印象を与える程度に全体として混入している状態を示す。
b	<u>人間の活動の主体</u> いなか・男・女・おとな・ 子供・（不良）	いなかっぽい（どこことなく都会的スマートさがなく泥臭い感じた。）	どこことなくその要素の方が現れている。
c	<u>人間活動精神および行為</u> 色・つや・骨	色っぽい女（いかにも色気があると感じられる。）	いかにもその要素が強く感じられる。

国松（1970）は、a－c のそれぞれについて、「っぽい」が接続した場合の意味を「本来それを必要としないものにそれらがマイナスの印象を与える程度に全体として混入している状態を示す」、「どこことなくその要素の方が現れている」、「いかにもその要素が強く感じられる」と分析する。

注目したい点は、国松（1970）は「自然物及び自然現象」の名詞に「っぽい」が接続した場合、「マイナスの印象を与える程度に全体として混入している状態を示す」と分析している点である（上記 a）。b と c にはそういった記述はないが、a の用法では「っぽい」が必ず「マイナスの印象」を与えるとされている。

ケキゼ（2003）も同様に、旧用法にあたるもの²を 5 つに分類し、そのうちの 1 つの用法として「好ましくないもの〔X（モノを表す）〕を話者の暗黙の基準値よりも多く含む。」を立て、「埃っぽい（空気）」、「水っぽい（ミルク）」、「骨っぽい（魚）」などのこの用法に含まれる表現の全てがマイナス評価の語であると分析している。

また、山下（1995）でも、モノ名詞に接続する「っぽい」は大抵の場合、マイナス評価を付与すると分析し、国松（1970）と同様にとらえている。³

しかし、国松（1970）の a の場合、ケキゼ（2003）の場合、山下（1995）の場合でも「マイナスの印象」や「マイナス評価」が「っぽい」によって付与されとは限らないのでは

² ケキゼは「安定した用法」と呼ぶ。

³ 「っぽい」が接続することでマイナスの印象を与える（あるいは与える場合がある）という見方は、このほか、森田（1986）、飛田・浅田（1991）、石島（1994）、門倉（1996）、小松・木村（1997）、頼（1999）、久保（2008）、竹島（2010）にも見られる。

ないかと本稿では考える。以下に、節を改めて論じる。

4. 「っぽい」の用法の観察 — 「骨っぽい」の場合 —

「マイナスの意味」が適切かを考える前に、まず、特定のいくつかの言葉に付く「っぽい」を観察することで、「っぽい」の意味用法に迫ってみたい。初めの例として、ほかの言葉と比べて特に多義的である「骨っぽい」を用いて、「っぽい」の意味用法を整理する。用例の収集には、現代日本語書き言葉均衡コーパスや新聞記事検索サービス⁴などを用いた。

収集した用例の「骨っぽい」の使い方は、5つに分類できた。以下の①～④は小出(2005)のいう旧用法、⑤は新用法である。

① 魚や肉などに骨が多い。

- (7) ここ房総ではいろいろな魚が定置網などにかかり、揚ってきます。いろいろな魚を食材としてためしてみました。骨っぽくて食べづらいもの、臭いのきついもの、などいろいろ有る中で、(下略)。(スローフード</HEAD>

(www.awa.or.jp/home/nature/slowfood.html))

- (8) 骨も取られていて、身もふっくらしてとても美味しく、何度もリピートしました。ただ、ここ何回か骨っぽく身も痩せたものが多く、家族から大不評で困っています。(フライパンで！国産さわらのカレーソテー | オイシックス公式 (oisix.com) (<https://www.oisix.com/ShouhinShousai.ss8-8128-2140.htm>))

この用法は、国松のaである。これらの「骨っぽい」は、「骨が多くて食べづらい」意味が感じられ、印象はマイナスである。

② 痩せてごつごつと骨ばっている。

- (9) 少なくとも明らかなのは、ナチス党が醜男であれ、つぶれた顔であれ、耳がとび出していようが、気味の悪い笑い方をしようが、涙目、酒に酔ったような赤鼻であろうが、カチカチの骨っぽい奴から太っちょまで(ただし制服にも収まらないような肥満体は別だが)、ともかくだれであれ皆をエリートとして受け入れ、つまりは運動の中核に入ることを許し、少なくとも最高の民族、唯一無二の人種の一員であることを認めたことである。(クラウス・デーヴェライト、田村和彦訳『男たちの妄想』法政大学出版局、2004)

- (10) ポイントを覚えれば簡単！それは「三つの首」を出すことです。上から首、手首、足首。このきゃしゃで骨っぽい部分をアピールすることで、ぐんと女性らしくなります。(朝日新聞「大草直子のおしゃれの時間 「三つの首」出して魅力プラス女子組」2013.4.4 夕刊)

身体について述べており、これも国松の分類ではaになると見られる。上例のうち(9)は、

⁴ 参照したコーパスなどは次の通りである。現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)・コーパス検索アプリケーション「中納言」・朝日新聞クロスサーチ・聞蔵2 ビジュアル・毎索 (マイサク)・ヨミダス歴史館

前後に容姿や体型がマイナス感の強い例が並んでいて、そんな人でも、という述べ方をしている文脈なので、ここでは「骨っぽい」もマイナスと感じられる。だが、(10)では、「骨っぽい」の印象はプラスでもマイナスでもなく、ニュートラルである。aの場合でも、マイナスとは限らないという例として示せると思われる。

③ しっかりしていて、気骨がある。

(11) 城の石垣が何十丈と崩れたが、有司は幕府のとがめを恐れて手をつけようとしなかった。ところが斉昭の反対派の首領結城寅寿の姻戚近藤次郎左衛門という、不偏不党で骨っぽい人物がひとりたち上り、万一の際はおれが腹を切って申訳をするといい、独断で多くの土工を使って石垣の修復をした。(山川菊栄『覚書 幕末の水戸藩』岩波書店、1974)

(12) ちなみに魏・呉・蜀の三国の書は、例外はあるものの、それぞれ特徴的で、魏が「どっしりと迫力みなぎる」のに対し、呉は「軽やかでのんびり」、蜀は数が少ないが「まじめで骨っぽい」といった印象を受けるという。書風は国のあり方を映すのだろうか。(朝日新聞「美の履歴書：615 「玄莫帖」 諸葛亮」2019.8.27 夕刊、夕刊F火曜1面)

(11)は「不偏不党」、(12)は「まじめ」とともに使われ、プラスの印象だと見ることができる(これらは、国松でいえばcのタイプなので、aについてマイナスと主張している国松への反例になる例ではない)。

(13) 『日本の太陽の根元』(昭和2・邦訳『日本印象記』・原始社)は、いかにもその彼のものらしい軽妙なウィットの横溢する好著で、「日本民族の意志は下駄の骨っぽい音の中にこもっている」と書いたりするような見当ちがひもあるけれど、われわれ日本人にとって耳の痛い個所も多く、(下略)。(山下武『幻の作家たち 消え去りし文学へ寄せるオマージュ』冬樹社、1991)

(13)は「骨っぽい」で音を形容した比喩的な用法だが、「気骨」という意味によるプラスの印象の「骨っぽい」と見ることができる。

④ 骨らしさを(たくさん)備えている。

(14) 何か変わった延長コードってないの? と探してみたらありました。魚骨形の明和電機の延長用コード、「N a - C o r d」。カラーは、さらに骨っぽいベージュとクリアなタイプの3種類。使用時には目の部分のネオンランプが怪しく光るので、うっかりした電気のつけっぱなしも防げます。(岩本明子『POPEYE』2002年12月23日号(No.647、第27巻第23号)マガジンハウス)

魚の骨の形をした電源延長コードについての説明である。形状だけでなく、色も骨の色に近いベージュのものを「さらに骨っぽい」と表現している。形状も「骨っぽい」し、ベージュであることがさらに「骨っぽい」というわけである。②と同様、「骨っぽい」の印象はプラスでもマイナスでもなくニュートラルと見ることができる。

⑤ (新用法) よくわからないが、骨であるらしい。

(15) 26 日午後 3 時 10 分ごろ、福岡市早良区野芥 4 丁目の神社裏手にある斜面で、散歩中の近くの男性から「骨っばいものがある」と 110 番通報があった。署員が駆けつけたところ、全身が白骨化した遺体が見つかった。(朝日新聞「身元不明の遺体発見 福岡・早良区 /福岡県」2009.3.27 朝刊, 福岡・1 地方)

以上のうち、先行研究で指摘されていたのは①～③である。①から③のどれとも違う④は、旧用法ではあるが、先行研究では指摘されてこなかった。

用法を整理することで、④も含めて、①～④には、<「骨」そのものや(場合によっては比喩的な意味での)「骨」の特徴を存分に持っている>というような共通の意味が見いだせた。多くの先行研究では、名詞に接続する「っばい」はいくつかに分類でき、それぞれに少しずつ異なる意味がもたらされることが指摘されていたが、久保(2008)は「っばい」の核となる意味として「上接語の典型的特徴を多く含む」としていた。本稿も久保(2008)同様、「っばい」には、<前接語そのものや(場合によっては比喩的な意味での)前接語の特徴を存分に持っている>を表すという一つの意味に収束できるとみたい。

また、名詞の「骨」に「っばい」が付き、①～④とは異なる、文のモダリティに関わる新用法の「っばい」(⑤)を発見できた。小出(2005)は、新用法は名詞以外に後接する場合の用法だとしているが、名詞に接続する新用法も存在することがわかった。これについては、第 6 節で改めてとりあげる。

5. 「っばい」の用法の観察—「油っばい」「粉っばい」「水っばい」などの場合—;

「っばい」はマイナスの意味を付与するか

「骨っばい」ではプラスの印象、マイナスの印象、プラス・マイナスの印象がなく、ニュートラルな場合とがあったが、以下では、先行研究において「っばい」が結びつくときマイナスの印象が与えられるとされていた「油・粉・水・すじ・ほこり」について、必ずそういえるかどうかを検討する。

5.1. 「マイナスの意味が付与されているか」の判定の方法

以下の考察において、マイナスの意味が付与されているかどうかについては、例えば、次のように前後の文脈を見たうえで判断することにした。

(16) 鯛の銀照り焼き(材料)(4 人分)*粉山椒 山椒の果実を乾燥させて粉末にしたもの。さわやかな香りがあり、生臭みや脂っばさを抑える作用がある。主にうなぎの蒲焼きや吸い口に用いられる。(金子信雄『金子信雄の楽しい夕食 part 4』実業之日本社, 1991)

これは、「脂っばさ」が「生臭み」とともに、「抑える」必要があるものとされていることから、マイナスの印象を持つことばだと判断した。次例も、「粉っばさ」が「気になる」とされているため、マイナスとした。

(17) コーヒープレスで淹れる コーヒー豆のそのままの味を引き出す方法。味のよい

豆を使うことがポイント。粉っぽさが気にならなければ、手間いらずだし、簡単でおいしく飲める。(狩野知代「休みの日には、コーヒーを淹れよう」地方・小出版流通センター, 2005)

反対に、以下のような例では、マイナスではないニュートラルな印象と判断した。

- (18) 1 ミキサーボウルにバターとグラニュー糖を入れ、ビーターで混ぜ合わせる。
2 残りの材料を加える。まだ若干粉っぽさが残り、完全に合わさる直前まで混ぜ合わせる。 3 冷凍庫に入れてよく冷やして締める。(横田秀夫『ホテルのお菓子とデザート』柴田書店, 2001)

原料である粉が残り、「粉っぽい」という言葉が使われる場合、料理の完成時ではマイナスの印象があるが、料理の途中段階ではマイナスの印象にはならないと考え、ニュートラルとした。

5.2. 「っぽい」が接続するとマイナスの意味が付与される例

前掲(16)(17)の他、例えば次のような例があげられる。

- (19) 昨日買ったカボチャはほくほくで、喜んでまた買いに行ったら、今度は水っぽくてがっかり。(三国清三ら『発信 北の食材』北海道新聞社, 2002)
- (20) 粉っぽいとそれだけで厚化粧の印象を与えてしまう。(天野佳代子『美的(B I T E K I)』小学館, 2001)
- (21) 薔薇好きニャンズのアトム!! (中略) 葉っぱを食したアトムの満足そうな表情を見て、思わず僕もほんの少しだけ頂いてみたけれど・・・筋っぽくて少し苦味があるから、炒め物向きかな?それにしても鮮やかで気分が宜しいぞ★(Yahoo! ブログ, 書き言葉均衡コーパス, 2008)

以上、前接語「油」「粉」「水」「すじ」には、決してマイナスの意が備わっているわけではない。だが、先行研究での指摘の通り、「っぽい」が接続することでマイナスの印象になると見られる例である。

5.3. 「っぽい」が接続しても、マイナスの意味が付与されない例

だが、同じ前接語であっても、以下のように、決してマイナスの印象であるとは言い切れない用例もあった。(23)は、マイナスの印象でないどころか、プラスの意味で使われている用法⁵である。

- (22) どちらからともなく、おながすいたといって、ラーメン屋へはいる。雪はまだ降っているが、大きな水っぽい雪なので積ることもなく、乗りものの停まる心配もなさそうだった。(田辺聖子『薔薇の雨』新潮社, 1989)
- (23) 水っぽくておいしい気がします。(Yahoo! ブログ, 書き言葉均衡コーパス, 2008)
- (24) 新規購入のバラ「スピリット・オブ・フリーダム」。典型的なオールドローズ(イングリッシュローズ)で花びらが多いディープカップ咲き。ミルラ香。香りのよさでは、前にアップしたサマーソングが一番ですが、こちらも粉っぽいようなバ

⁵ 「っぽい」にプラス評価の意が付与される場合も存在することは山下(1995)も指摘。

ラ特有の香りがします。毎日の水やりやお手入れのときにも、近づくとうっとりです。(Yahoo!ブログ, 書き言葉均衡コーパス, 2008)

- (25) てなことで次に真澄 純米吟醸 山廃造りをば・・・うむ、コクがあって酸味もある・・・おう、今回の筋っばい野性的な中トロをガツンと受け止めてくれるではありませんか。うん、あれですよ、今回のヅケには真澄 純米吟醸 山廃造りの方が合ったということです。(Yahoo!ブログ, 書き言葉均衡コーパス, 2008)

- (26) その日の昼、彼は自転車で川原に出た。普段は近所の中華料理屋で食事をするのだが、なぜか同僚と肩を並べて油っばい料理に箸を伸ばす気になれず、コンビニエンスストアで弁当と烏龍茶を買った。(篠田節子『レクイエム』文藝春秋, 2002)

「油」「粉」「水」「すじ」「骨」などのように前接語自体にマイナスの意味がなければ、以上の例からわかる通り、「っばい」が接続してもマイナスの印象にならないという場合もある。ただし、前接語自体にマイナスの意がある「埃」のような場合は、「っばい」が接続しても印象はマイナスにしかない。

以上の例から、「っばい」そのものにいつもマイナスの意味があるという見方はできないことがわかった。

6. 新用法について

上述のように、小出 (2005) は、

- (4・再掲) どーも明日は雪が降るっばい。(小出 (2) a)

のような「っばい」を「新用法」と名づけ、新用法は、名詞以外を前接語とし、「っばい」はモダリティにかかわるものであるとしている。

しかし、第4節⑤であげた、

- (15・再掲) 26 日午後 3 時 10 分ごろ、福岡市早良区野芥 4 丁目の神社裏手にある斜面で、散歩中の近くの男性から「骨っばいものがある」と 110 番通報があった。(下略)

は、名詞に付くモダリティの新用法の「っばい」と見るべきものである。

他にも、コーパスから、名詞に接続する新用法の実例を確認することができた。

- (27) お隣が宗教関係っばいののですが、確かめる方法ありますか？(Yahoo!知恵袋, 2005, <https://question.realestate.yahoo.co.jp/knowledge/chiebukuro/detail/1470879/>)

この例は「確かめる方法」を問題にしているので、ただ「宗教関係の雰囲気がある」ことを述べる旧用法ではなく、「宗教関係なのではないか」と推測し、その可能性は高いが真偽はわからないというモダリティをあらわしたものと見られる。

このように名詞に付く「っばい」にも新用法のものがあることを指摘しておきたい。もっとも、名詞に付く新用法の「っばい」については、小出以外の先行研究(第2節参照)を詳しく見ると、実は、一部ではすでに例があげられていた。それらでは「新用法」の名は使われていないし、「モダリティ」という指摘があるとも限らない。また、実例でなく作例の場合もあるが、これらに触れておくと、

- (28) この椿はどうも侘助っばい。(小松・木村 1997 : 48)

- (29) どうやら明日は雨っぽい。(庵ほか 2000 : 397, ケキゼ 2003 : 33, 例 11)
(30) (はっきり見えないものについて) それ、橋っぽくない? (ケキゼ, 同上, 例 10)
(31) どうやら Amazon が最安値っぽい。(尾谷 2005 : 270, 例 58d)

などが、早い時期のものとして、見出せた (他に、久保 (2008)、岩崎 (2009)、梅津 (2009)、小原 (2010)、岩崎 (2011)、佐藤 (2015)、中村 (2019))。

名詞に付く新用法の「っぽい」の実例のおそらくもっとも早い指摘としては、

- (32) (国電車で) 「そろそろ品川じゃない」「ほんと品川ッポイわよ」(『言語生活』
1977 年 5 月号 p. 72 「耳」欄の読者投稿。見坊 (1977) でも引用されている)

が見出せた。

旧用法から、名詞に付くモダリティ的な「っぽい」(新用法) も生じるようになり、それから他の品詞に付く新用法に広がったのだと見られそうである。

7. 日本語教育での「っぽい」

日本語教育では「っぽい」はどのように扱っていくべきか、検討してみたい。そこで、日本語教科書で「っぽい」を調べたところ、初級の教科書には出て来ず、中級にも、調べた限りでは出て来なかった。学習用の辞書や参考書を見たところ、用法の簡単な説明と、いくつかの例文が載っていた。そのうち、早い時期に刊行された文化庁 (1975) と、現在よく使われているとみられるグループ・ジャマシイ (1998)、庵ほか (2000) の 3 点の要点をまず見ておこう。

文化庁 (1975) では、「っぽい」は「～のようである」、「～のけいこうが強い」という意味を表す」とされ、例えば次のような例文があがっていた。

- (33) 年をとるとだんだんわすれっぽくなる。
(34) ぼくは、理くつっぽい人はきらいだ。
(35) あの人は、かなりの年なのに、子どもっぽいところがある。
(36) このさけは、いやに水っぽい。
(37) あの黒っぽい表紙の本をちょっと取ってください。

「っぽい」自体が形容詞の活用をすることは示されているが、前接語の品詞についての情報は無い。上記の意味の記述も、品詞に分けてのものではない。他の例文に使われていた語には「あわれっぽい」「おこりっぽい」「よごれっぽい」があった。

グループ・ジャマシイ (1998) では、「名詞や動詞の連用形に付いて、「その感じがする・傾向がある」などの意味を表すイ形容詞を作る。」と概略を述べた上で、さらに「どのような語に付いた場合は、どのような意味を表す」という記述をしている。あがっている例文の最初の 3 つは、次のとおりである。

- (38) 男は白っぽい服を着ていた。
(39) あの人は忘れっぽくて困る。
(40) 30 にもなって、そんなことで怒るなんて子供っぽいね。

最初の例は「赤・白・黒・黄色・茶色」など色を表す名詞とともに用いられて、「その色

を帯びている・その色に近い」という意味を表すもの。第2例は「怒る・ひがむ・ぐちる・忘れる」などの動詞の連用形に付いて、「すぐに…する・よく…する」という人の性質を表すもの。第3例は「子供・女・男・やくざ」等に付いて、「子供／やくざのようだ」「いかにも女／男という感じがする」という意味を表すもの、という例としてあげられている。

このほか、「水っぽい（水の量が多くて薄い）」「湿っぽい（湿っている感じがする、陰気な）」「熱っぽい（熱がある感じがする）」などがある、とされ（上記の説明に該当しない例としてあがっている模様）、例文として、次のようなものがあがっている。

(41) この牛乳水っぽくてまずいよ。

(42) 死ぬだとか葬式だとか、湿っぽい話はもうやめよう。

さらに、「子供っぽい・水っぽい」は話し手のマイナス評価を含む。プラス評価を表すときには「子供らしい・みずみずしい」が用いられる」、という記述もあった。

庵ほか（2000：397）では、前接語の品詞をリストしたあと、「～っぽい」の意味として「人や物などがそのような性質を持つ傾向が強いこと」を表すとし、その上で品詞ごとの説明を加えている。例文は次の3つで、それぞれ動詞、形容詞、名詞に付いた例である。

(43) 彼は非常に怒りっぽい性格をしている。

(44) 犯人は黒っぽい服に赤みがかかったジャンパーを着ていた。

(45) ここのところ雨が降っていないから、なんだかほこりっぽい。

説明としては、①「怒る、飽きる、忘れる、ひがむ」などの変化を表す動詞に付くときにはそのような良くない状態に頻繁に陥りやすい性質であることを表す、②色彩形容詞や「安い、きざだ、俗だ」などの属性形容詞に「～っぽい」が付くときには、典型的な状態ではないが、そのような性質を帯びていることを示す（例えば「黒っぽい」は、「黒い」よりは「黒さ」という点で典型的ではなく「黒」に近似した色であることを表す）、③「ほこり、粉、水、不良」などの名詞に「～っぽい」が付くときには、その名詞の表しているものの状態に近い属性を持つことを表す、とされている。（このほか、庵ほか（2000）は、新用法の例（前掲(29)）もあげている。）

以上3点に共通して出ている語は、以下であった。

表 4

色	黒っぽい
名詞	水っぽい・子どもっぽい
動詞	忘れっぽい・怒りっぽい
形容詞（イ・ナ）	3点共通はなし

学習者は、日本人と会話する中で新用法と接する機会が多いことが推測できるが、教育方針としては、まずは旧用法の「っぽい」のうち、ふさわしいものを選んで、それを身につけてもらうことを優先させるべきだと考える。新用法は文に付くことも可能であるため、前接語を覚える必要がない。一方、旧用法の前接語は広がってきているとはいっても限られていると見られ、それは新用法と違い、「っぽい」が付くことで前接語のみ

の意味とはかなり離れた意味になっている場合もある。

旧用法のうちふさわしい語を学習者に理解語としても使用語としても身につけてもらうには、上記の学習用辞書・参考書にもあげられていたように、品詞別に整理し、例文⁶とともに示すことが必要だと考える。ふさわしい語としては、コーパスでの出現頻度も参考にすると、次のような案が描けると思われる。学習者のレベルは初級後期から中級を想定する。

まず「っぽい」は名詞に付く場合が多いことを伝えつつ、名詞に付く例から教えるのが順当であろう。名詞の場合、以下のような例が適切であろう。

(46) 彼女はまだ高校生なのに、顔も、言うことも、大人っぽい。

(47) あの人、すぐ怒ったり泣いたりする、子どもっぽい性格です。

(48) このお酒は水っぽくて、まずい。

(49) この部屋はしばらく掃除をしていないので、ちょっとほこりっぽい。

(50) 今日の料理はちょっと粉っぽかったですね。

(51) この魚は、骨っぽいので、食べるとき、気をつけてください。

(52) 彼女はかわいい顔をしているが、議論のときはしっかり自分の主張をする。意外に骨っぽい人だ。⁷

(53) 咳やくしゃみがでる。体全体も熱っぽい。今日は早めに寝よう。

(54) 学長は、大学をもっとよい大学にしていこう計画について、学生たちに熱っぽく話した。

(51)と(52)、(53)と(54)は、同じ語で、本来のフィジカルな意味と、性格や行為に使った比喩的な意味との例であり、中級の半ば以後なら、両方を紹介したいところである。

第5節で述べたように、前接語自体にマイナスの意味があるものは「っぽい」が付いてもマイナスの印象をもつ。「っぽい」を教える初めの段階では名詞に「っぽい」が付いた場合、マイナスの印象をもたらしことが多いたい。ただし、(52)、(54)の比喩的な「骨っぽい」、「熱っぽい」のように、「っぽい」が付いてもマイナスの印象がもたられない語もあることも一言添えたい。

動詞の場合は、例は少ないが、以下のような例が適切だと考える。

(55) 父は60才をすぎて、怒りっぽくなった。

(56) 彼はまた、頼んだことを忘れた。本当に忘れっぽい人だ。

(57) ヨガを始めたが、飽きっぽいので1週間でやめてしまった。

以上のように、マイナスの意味を持つ語が多い。動詞は「っぽい」が付くと性質を表し、「頻繁にVをする」といったような意味を持ち、多くの場合、その行為はあまりよくないことである。

形容詞の場合、前接語が形容詞で、それに「っぽい」がついた結果も形容詞であるため、もとの形容詞とは意味が変わることになる。前接語が色彩の場合は、以下の例のよ

⁶ 例文は一部、先行研究やコーパスの用例を参考に書き改めた。

⁷ 中島（1983）より。

うに、「(色彩)の要素をたくさん持つ」という意味になる。⁸

(58) たばこの煙で、白い壁紙が茶色っぽく変色している。

(59) 明日のセレモニーは、黒でなくてもいいけど、黒っぽい服を着たほうがいい。

前接語が色彩でない場合の主な例としては「安っぽい」がある。

(60) この店の商品はどれも安っぽい。⁹

前接語の「安い」は値段が高いか安いかの意味だが、「安っぽい」は値段が安いかどうかではなく、「安いものがもっている性質を(たくさん)持っていて、いかにも安い感じがする、見るからにグレードが劣る」という意味で使われている。「形容詞+っぽい」の例としては他に「荒っぽい」もある。

以上、コーパスで頻出する語をもとに、日本語教育で扱うべき、旧用法の「っぽい」の例をあげた。最初に「っぽい」を教える段階では旧用法の中でも、上記のような例が適切だと考える。

8. まとめ

本稿では、接尾辞「っぽい」の付与する意味について考察した。用例を観察することで、自然物及び自然現象を表す名詞と接続する場合であっても、必ずしもマイナスの印象を与える言葉になるとは限らないこと、名詞接続する新用法があること、「っぽい」の核にあたる意味を示し、日本語教育での「っぽい」の取り扱いについて提案を行った。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク。
- 石島満沙子(1994)「接尾語「～っぽい」に関する一考察」『北海道大学留学生センター年報』2, 45-53.
- 岩崎真梨子(2009)「形容詞性接尾辞「一ぽい」の展開」『岡大国文論稿』37, 66-76.
- 岩崎真梨子(2011)「「一ぽい」の意味用法と展開」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』31, 83-96.
- 岩崎真梨子(2013)「形容詞性接辞のレアリティに関する考察―「一ぽい」「一らしい」「一みたい」―」『八戸工業大学紀要』32, 1-20.
- 梅津聖子(2009)「現代日本語にみる接尾辞「ぽい」の広がり」『拓殖大学日本語紀要』19, 55-64.
- 梅原敏弘(2002)「日本語接尾辞「-っぽい」と英語接尾辞「-Ish」の類似と相違について」『駒澤短期大学研究紀要』30, 415-431.
- 尾谷昌則(2005)「接尾辞ポイのモダリティ化」『日本語用論学会大会研究発表論文集』1, 17-24.
- 小原真子(2010)「接尾辞「-ぽい」について」『島大言語文化』29, 59-76.

⁸ 佐藤(2015)でも指摘。

⁹ 石島(1994)より

- 門倉正美(1996)「～ばい」芳賀綏編『あいまい語辞典』東京堂出版.
- 国松昭(1970)「「ばい」雑考(接尾語ノートⅠ)」『日本語と日本語教育』2, 慶応義塾大学国際センター, 185-208.
- 久保有佐(2009)「現代語における接尾辞「ばい」の用法」『玉藻』44, フェリス女学院大学国文学会, 1-10.
- グループ・ジャマシイ(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版.
- ケキゼタチアナ(2003)「「ばい」の意味分析」『日本語教育』118, 27-36.
- 見坊豪紀(1977)「ことばのくずかご 第168回」『言語生活』311, 74-75.
- 小出慶一(2005)「接辞「～ばい」の用法の広がり―「雪が降るっぽい」という表現はどのように成立したか」『群馬県立女子大学紀要』26, 1-13.
- 黄其正(1998)「認知過程からみた接尾辞「-らしい」「-っぽい」」『広島大学日本語教育学科紀要』8, 77-83.
- 小島聡子(2003)「接尾語「ばい」の変化」『明海日本語』8, 31-38.
- 小松裕子・木村秀次(1997)「接尾辞「ばい」小考」『明海日本語』3, 41-51.
- 佐藤しづか(2015)「接尾辞「-ばい」について―形容詞に接続した用例を中心に―」『第13回日本語教育研究集会予稿集』, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, 6-9.
- 高橋勝忠(2015)「「-っぽい」の考察―「-っぽさ」と-Ishnessの関係について」『京都女子大学大学院文学研究科研究紀要』14, 33-49.
- 竹島奈歩(2010)「接尾辞「ばい」と共起する名詞について:新聞記事の見出しを例に」『同志社大学日本語・日本文化研究』8, 20-37.
- 田村泰男(2004)「接尾辞「ばい」が結び付く語句について」『広島大学留学生教育』8, 37-44.
- 中島由美(1983)「～ラシイ・～ッポイ・～クサイ」国広哲弥編『意味分析』東京大学文学部言語学研究室, 60-62.
- 中村真子(2019)「接尾辞「ばい」の用法の拡大について」『思言 東京外国語大学記述言語学論集』15, 203-210.
- 新山茂樹(1960)「形容詞の接尾語「……っぽい, ……っぽい」の生成」『国語研究』10, 國學院大學国語研究会, 48-58.
- 野村雅昭(1994)『日本語の風』大修館書店.
- 濱田佳苗(2010)「接尾辞「ばい」について」『愛知大学国文学』49, 85-99.
- 飛田良文・浅田秀子(1991)『現代形容詞用法辞典』東京堂出版.
- 平野啓太(2018)「接尾辞「ばい」「らしい」「くさい」の変化と構文スキーマ」『日本語・日本文化研究』28, 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻, 150-161.
- 文化庁(1971)『外国人のための基本語用例辞典(第二版)』大蔵省印刷局.
- 牧野成一・筒井通雄(1995)『日本語文法辞典 中級編』ジャパントイムズ.
- 松井栄一(1985)『国語辞典にない言葉と用例』南雲堂.
- 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店.
- 山下喜代(1995)「形容詞性接尾辞「-ばい・-らしい・-くさい」について」『講座日本

語教育』30, 早稲田大学日本語研究教育センター, 183-206.

頼錦雀(1999)「「～ぼい」形式について」『東呉日語教育学報』22, 東呉大学日本語文学系, 91-116.

李成圭・和田康二(2012)「接辞「ポイ」「ラシイ」「クサイ」の運用について—名詞語基を中心に—」『日本学報』91, 韓国日本学会, 243-257.

—国学院大学大学院博士課程前期—